

【改訂版】いじめ早期発見のための気づきリスト（学校用）

（本気づきリストの活用例）

- ・ 個別面談や長期休業明け、子どもの様子が気になった時に、担任等が子どもの変化を具体的に把握するために使用
- ・ 定期的に子どもの様子を確認し、記録として残すことで兆候を把握

対象児童生徒名：

記入日： 年 月 日（ ）

子どもの様子

【学校生活】

- 遅刻や早退、欠席が増えた
- 体調不良を訴えて保健室に行くことが増えた
- 授業中に寝るなど集中していないことが増えたり、成績が下がったりした
- 忘れ物をしたり、物を失くすことが増えた
- 昼食を食べなかったり、残したりしている
- 部活動を休んだり「やめたい」と言ったり、「進路変更したい」と言ったりする

【友人関係】

- 一緒に過ごす友人が変わった
- 休み時間に1人で過ごすことが増えた
- 周囲の人の様子を気にするようになった

【本人の様子】

- 落ち込んだり、はしゃいだり、感情の起伏が激しくなった
- 何かと教職員に寄ってくるようになった
- 頻繁に持ち物が替わるようになった
- スマートフォンやSNSをひどく気にするようになった
- 服が汚れていたり、理由のはっきりしないあざや擦り傷があったりする

【その他気になること】

例：過去に受けた友人からの嫌な言葉や行為を思い出し、心身の不調を訴えるようになった。など

[]

子どもの様子が気になったら

1. 学校内で共有し、様々な立場の教職員が本人の様子を丁寧に観察する。
2. 本人の様子を保護者に伝え、家庭でも見守りを依頼して状況を共有する。
3. 本人との面談を行い、悩みや不安、いじめについて聞き取って確認する。
4. 本人との信頼関係保持に配慮しつつ、面談の様子について保護者と共有する。
5. 面談等でいじめの被害申告があったり、いじめの情報を得たりした場合には、原則として、その日のうちに校長と関係教職員が情報共有し、当面の対応を決定して直ちに取り組む。

※なお、本リストは、虐待や抑うつ状態の兆候とも重複する可能性があります。